

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 30 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284118

研究課題名(和文) 前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究

研究課題名(英文) The environmental historical study of traffic routes and checking stations and ferry crossings in pre-modern China

研究代表者

福原 啓郎 (FUKUHARA, Akiro)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：60221537

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：4回実施した潼関や函谷関などの関津の現地調査とそれを踏まえた研究会の最大の成果は、秦の函谷関と漢の函谷関と曹魏の函谷関と潼関は広義の函谷関であること、潼関の時代的変遷と曹魏の函谷関の位置の確認である。後者の詳細は塩沢裕仁「函谷関遺跡考証 四つの函谷関遺跡について」を参照。2017年1月、京都外国語大学を会場として、中国における歴史地理学の第一人者である侯甬堅氏(陝西師範大学)を招き、国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」を開催し、その報告集は2017年6月に刊行した。

研究成果の概要(英文)：We studied checking stations and ferry crossings of Tong guan and Han gu guan and so on on the spot four times. And We held workshops based on the findings of investigations. We succeeded to confirm the Han gu guan in a broad sense and the changes of Tong guan and the location of Han gu guan in Cao Wei Dynasty. This is the richest harvest of our study. Refer to "On the historical ruins of four Han gu guan" by Hirohito Shiozawa for Han gu guan in Cao Wei Dynasty. In January 2017, we invited Hou Yong Jien from Shan xi Normal University, who is the greatest scholar of Chinese historical geography. And we held the international symposium titled "The environmental historical study of traffic routes and checking stations and ferry crossings in pre-modern China". The reports of this international symposium was published in June 2017.

研究分野：中国史

キーワード：関津 函谷関 潼関 蒲津 孟津

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけとして、関津(関所と渡し場)が歴史上の重要な事件・事象に関わってきたことは、必ずしも前近代の中国史に限ったことではないが、長期にわたり皇帝による専制統治が続いてきた中国では、帝都を中心とする交通の要衝に関津を配置することによって人びとの移動を管理し、それが王朝の統治を安定させた大きな一因となってきたのであり、逆に関津の制禦を失うことは王朝の存亡に深刻な危機をもたらした。その意味で前近代中国において関津の果たした役割は、他の歴史地域に比してより大きなものであったと言い得る。しかし、前近代中国の関津の歴史的意義について正面から取り組んだ国内の研究は意外と少ない。唐宋時代の交通史に関する古典的名著たる青山定雄『唐宋時代の交通と地誌地図の研究』(1963年)においても、関津については商税(関税)との関係で一章が割かれているに過ぎず、近年刊行された『古代東アジアの道路と交通』(鈴木靖民・荒井秀規編、2011年)においても、本研究の研究分担者の塩沢が洛陽周辺の関津について簡略に紹介したにとどまる。中国における研究は、史念海の研究に代表される歴史地理学の分野に一定の蓄積があり、今後研究を進めてゆく上での重要な基礎となる(史念海『黄土高原歴史地理研究』、2001年)。ただ、この研究にしても、伝世文献とフィールド調査の成果を利用したに過ぎない。

(2)これまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯として、本研究の研究分担者・小方は、自然・人文にまたがる地表上の各種の現象に関するデータを、コンピュータを用いて分析し、歴史地理研究に応用する試みを行ってきた。研究分担者の辻は、文献史料による研究を通じて関津研究の必要性を以前から感じていたが、2005年に開催された「唐代史研究会夏期シンポジウム」で小方が「衛星

写真を利用した都城景観の復原」を主題とする報告を行ったことがきっかけとなって、共同してフィールド調査を行い(2008~2009年)、2012年3月には本研究参加者全員をメンバーとする研究会を立ち上げ、同年7月にはその第1回研究発表会を京都大学にて開催し、中国史上重要な役割を果たした「潼関」(陝西省と河南省の境界に位置する)について、以下の内容の報告を行った。

宇都宮美生：「潼関」概観 沿革と交通史

福原啓郎：魏晋時代の潼関

辻 正博：唐代の潼関

塩沢裕仁：歴史写真を主材料とした潼関遺跡の分析

小島泰雄：潼関遺跡の現状 人文地理学の視点から

小方 登：GISを用いた潼関遺跡の地形分析

本研究は、この研究会が母体となって進められた。

2. 研究の目的

(1)前近代中国の主要な関津(関所と渡し場)について、伝世文献および歴史写真の分析、考古学的調査、フィールド調査、コンピュータを用いた地理情報処理(GIS)といった多角的なアプローチから複合的に検討を加えることによって、対象を立体的に把握する。

(2)従来、各分野で個別に行われてきた研究を総合することにより、交通路の変化と自然環境との関係を明らかにし、関津の歴史的意義について、環境史の視点から新たな知見を提示する。

3. 研究の方法

(1)前近代中国の主要関津について、典籍資料・歴史写真の分析、考古学的調査、フィールド調査、GISといった多角的なアプローチから複合的検討を加える。

(2)具体的には、次の ~ の調査・研究を行う。そしてそれらの分析結果から、交通路の変化と自然環境との関係を解明するとともに、関津の歴史的意義について、環境史の視点から新たな知見を提示する。

前近代中国の主要関津について、その立地上の特徴を解明。関津がそこに設置された理由について考察。前近代中国の主要な関津について、典籍資料(石刻資料・地方志など)に基づきその沿革を確認した上で、立地上の特徴について、典籍資料とGISの双方から詳細な分析を行う。さらにその分析結果に対して、フィールド調査・考古学的調査により多角的な検証を加え、関津がその場所に設置された理由について考察を加える。

関津の実態について、多角的に分析。典籍資料(石刻資料・地方志など)と歴史写真による詳細な分析、考古学的調査・フィールド調査の成果を融合して、交通路との関係も視野に入れつつ、前近代中国の関津を立体的(時間と空間)に復原。

関津の歴史的意義について、交通路の変化と自然環境との関係に重心を置いて考察。

4. 研究成果

3. 研究の方法の(2)の ~ に対応させ、本研究の成果を述べる。

(1) 前近代中国の主要な関津について。典籍資料(石刻資料・地方志など)に基づきその沿革を確認した。その代表的な成果が、福原啓郎「文献に見える中国古代の「関」と「津」」である。三国時代に至るまでの関所と渡し場について、「関」「津」の字の本来の意味から始め、とくに函谷関と孟津を中心に、関津のその役割などの展開を論じている。

(2) 立地上の特徴について、GISから詳細な分析を行った。その代表的な成果が、とくに潼関について行った、小方登「衛星画像

とDEMから読み取る潼関付近の地形環境」である。

(3) フィールド調査・考古学的調査により多角的な検証を加え、関津がその場所に設置された理由について考察を加えた。そのために、研究代表者、研究分担者らによる現地調査を都合4回実施した。2013年9月、潼関故城、秦の函谷関、崤函古道などを調査、2014年11月、漢の函谷関、潼関故城、蒲津関を調査、2015年10月、黄河旧河道の渡津などを調査、2016年3月、潼関故城、曹魏の函谷関などを調査。それらの現地調査を踏まえて研究会(ワークショップ)を9回開催した。その最大の収穫は、第一に、いわゆる秦の函谷関、漢の函谷関、曹魏の函谷関、潼関はすべて広義の函谷関であることがわかったことである。第二に、潼関の時代的変遷を確認できたことである。第三に、曹魏の函谷関の位置を確認できたことである。第一と第三の詳細は塩沢裕仁「函谷関遺跡考証 四つの函谷関遺跡について」を参照。

(4) 関津の実態について、多角的に分析した。典籍資料(石刻資料・地方志など)と歴史写真による詳細な分析、考古学的調査・フィールド調査の成果を融合して、交通路との関係も視野に入れつつ、前近代中国の関津を立体的(時間と空間)に復原した。そのいわば集大成が、2017年1月、京都外国語大学を会場として、中国における歴史地理学の第一人者である侯甬堅氏(陝西師範大学)を招いて開催した国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」である。この国際シンポジウムの報告集は2017年6月に刊行した。主な成果として、繰り返しになるが、福原啓郎「文献に見える中国古代の「関」と「津」」は、前近代中国の主要な関津について、典籍資料(石刻資料・地方志など)に基づきその沿革を確認した。小方登「衛星画像とDEMから読み取る潼関付近の地形環境」(口頭報告時の題目は

「DEM(数値標高モデル)から読み取る潼関・函谷関の地形環境」は、潼関の立地上の特徴について、衛星画像とDEMから詳細な分析を行った。小島泰雄「点を線から考える 1937年空撮地形図を用いて」は、1937年空撮地形図を用いて、函谷関と潼関を分析した。塩沢裕仁「城壁・烽火台遺構よりみた潼関城址」は、現地調査にもとづき、城壁遺構と烽火台遺構から潼関故城を論じた。宇都宮美生「長安・河東幹線路における蒲津橋と東渭橋」は、蒲津橋の変遷を詳細に分析した。黄河古道の専門家である長谷川順二氏(学習院大学)も加わった全体討論で議論された。

(5) 関津の歴史的意義について、交通路の変化と自然環境との関係に重心を置いての考察は、十分に展開することができなかった。ただし、国際シンポジウムでの、海外連携研究者である侯甬堅氏の「從函谷関到潼関的變動 関隘・路網・山地環境和外部区域綜合分析」の報告はそれに相当する研究であり、本科研の継続的發展ともいうべき、基盤研究(A)(海外学術調査)「古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究」(課題番号17H01643、研究代表者辻正博、平成29年度～平成32年度)では、侯報告を参考にして、さらに研究を進めたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

塩沢裕仁、函谷関遺跡考証 四つの函谷関遺跡について、東京大学東洋文化研究所紀要、2016、169、61-100、査読あり

塩沢裕仁、洛河(洛水)・伊河(伊水)とその流域の都城・集落遺跡、『水経注(洛水・伊水篇)』(東洋文庫中国古代地域史研究班編)、東洋文庫、2015、5-48、査読あり

〔学会発表〕(計11件)

塩沢裕仁、城壁・烽火台遺構よりみた潼関城址、国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」、京都府京都市、京都外国語大学、2017年1月

小島泰雄、点から線を考える 1937年空撮地形図を用いて、国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」、京都府京都市、京都外国語大学、2017年1月

小方登、DEM(数値標高モデル)から読み取る潼関・函谷関の地形環境、国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」、京都府京都市、京都外国語大学、2017年1月

宇都宮美生、長安・河東幹線路における蒲津橋と東渭橋、国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」、京都府京都市、京都外国語大学、2017年1月

福原啓郎、文献に見える中国古代の「関」と「津」、国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」、京都府京都市、京都外国語大学、2017年1月

〔図書〕(計4件)

富谷至・吉本道雅・鷹取祐司・角谷常子・藤井律之・辻正博(共著)、昭和堂、概説 中国史(上) 古代 中世(富谷至・森田憲司編)、2016、304

塩沢裕仁、雄山閣、後漢魏晋南北朝都城境域研究、2013、374

〔産業財産権〕

該当しない

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福原 啓郎(FUKUHARA, Akiro)
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：60221537

(2) 研究分担者

塩沢 裕仁(SHIOZAWA, Hirohito)
法政大学・文学部・教授
研究者番号：70414076

小方 登(Ogata, Noboru)
京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号：30160740

小島 泰雄(KOJIMA, Yasuo)
京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号：80234764

辻 正博(TSUJI, Masahiro)
京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号：30211379

松浦 典弘(MATSUURA, Norihiro)
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：80319813

(3) 連携研究者

該当者なし

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

宇都宮美生(UTSUNOMIYA Miki)

法政大学・文学部・兼任講師

研究者番号：10638985